

審査講評

第1部 絵画

【審査員】 長谷川 清晴 (はせがわ きよはる)

《一陽会会員、日本美術家連盟会員、他》

新型コロナの感染が収束しないなか、かつてのようにコロナ禍を恐れず、平穏な日常を取り戻そうとする人も増えているが、内外ともに災害や戦争など多難な時代にあって、画家たちは夢や理想、喜びや悲しみ、苦悩など心の叫びを見せてくれる。

今、多様な表現に満ちた現代は過去の伝統的なものから革新的なもの時代の流行を追ったもの、また、これまでの素材、技法などすべてが目の前にあり、それを創作に取り入れることができる状況だけにもっと冒険をして欲しい。

今後の皆様の一層の精進を期待しています。

◎魚沼市展賞

・「山村雪の幻想」 畔上 正夫

雪がうっすらと積もった里の情景。粉糖を散らしたような繊細な雪の表現が上品である。奥行きのある構図も伸びやかで心地よい作品。

◎魚沼市文化協会長賞

・「松代田代の大イチョウ」 田村 順一

巨大なイチョウの樹木が上の方に伸びていく様子を下方から眺めている。又、鳥居のあいだから神殿も見える。空から光が密集する独特の神秘的な奥深い作風見事な作品です。

◎新潟日報美術振興賞

・「うつろい」 桜井 明子

赤から茶系の色彩の中、白いアジサイの花を繊細に扱って描かれた画面、雨が降り花の葉に蛙が2匹静かな空間すこし寂しいが、題名どおり、花は生命の表現となり奥深いイメージを作りだす見事な作品です。

◎奨励賞

・「初夏」井口 宏

水面の様子を画面に大きく描いている。光をうまく描きながら、刻々と変化する水の表情をしなやかで柔らかなタッチによって表現する。

◎奨励賞

・「春山」佐藤 ミツ江

雪の残る野や山の光景、所々に植物が顔を出しているが、少し冬の装いである。落ち着いた筆致がやがてくる春へと続く穏やかな時間を感じさせる。

第2部 書 道

【審査員】 小山 石湖 (こやま せつこ)

《日本書法教育会常任理事、日新現代書研究会会長、他》

今年の暑さは経験のないものであった。人はエアコンを適切に使うことが出来るが、動植物にとっては死活問題であった。地球沸騰時代という有難くない名前までついた。

魚沼市美術展書道部門の審査を担当いたしました。猛暑の中、画仙紙に向かっている姿を想像し、敬服いたしました。

◎魚沼市展賞

・「陸游詩」横山 さと子(妙華)

雄渾の作、沈着にしてゆるぎない線質。紙背に通ずる力漲る線が立体的に観る者を楽しませる。濃墨、軟豪の筆を駆使している。

◎魚沼市文化協会会長賞

・「トーマス・エジソンの言葉」坂大 優一

会場芸術として観る者を惹きつける魅力を表出している。全体構成よく潤渇の表現妙。

◎新潟日報美術振興賞

・「旅」石田 千代子(蕉葉)

「旅」一字書。一字の中に静、動を表現し、線が飛動している。収筆部の勢いと余韻に心惹かれる。空間の処理見事。

◎奨励賞

・「漱石の句」上村 初美(美秀)

夏目漱石の句を明るく力強く直線を主にして表現。文字の大小の変化余白の美が作品を引き立たせる。

第3部 写 真

【審査員】 山口 冬人(やまぐち ふゆと)

《(公)

新型コロナがら類に移行し生活が前年から大きく変わった。その分楽しみな審査でもあった。当然色々な分野の作品が集まり選ぶのに苦勞をしましたが、やはり力強い作品が上位に止まり残しました。機材が良くなり、昔撮れなかった被写体も簡単に写るようになった分、オリジナルを求めないと上位が難しくなりました。同じところでも何度も足を運ぶことだと思います。

◎魚沼市展賞

・「上り荷」志田 幸夫

山から炭を運ぶ苦勞が全身から伝わる。新潟県でも炭を焼く人も数名と聞いている。重い荷を背負って運ぶときは腕を組むのが自然で、足元から頭のハチマキまで無駄なく撮影されている。

◎魚沼市文化協会賞

・「大自然の芸術」和田 正之

タイトル通りで、良い日に良い場所で大地を切り取られた作品。月の光で写し込まれた裸木の影が不思議な大地を作りあげた。大地の息吹を感じる。

◎新潟日報美術振興賞

・「曙光の湖畔」星 義廣

高い所から撮影したのかドローンでの撮影か？黄金に輝く構図が目をついた。湖畔の雪原に差し込んだ朝日が黄金色に輝き、雪原の水路が梵字に見えて不思議な作品です。

◎奨励賞

・「風を感じて」佐藤 吉晴

人の視覚は青海川と言う文字に目が止まる。そして左の若いお母さんと娘さんへと目が移る。海を見渡せるホームに、娘さんのスカートが程よく風に揺れている様子が眼目になる。青い海、青空に白い雲のバランスが良かった。

◎奨励賞

・「シャドー」黒田 登美子

鏡のような長い廊下に差し込む光が美しい。赤い鞆を背負った女性？が居ることで傑作が生まれた。写真は光が大切だと思います。

◎奨励賞

・「ゲレンデに火の鳥舞う」山本 露子

タイトルのように花火の舞う様子が鳥の舞うように切り取られた。花火はどこで、どのように撮影するかで大方決まる。有名な花火大会と違う力強い花火ののだと思います。

出品者数等

部 門	出品者数 ()はうち高校生	出品点数 ()はうち高校生	入賞・入選点数 ()はうち高校生
第1部 絵 画	41 (0)	46 (0)	46 (0)
第2部 書 道	20 (3)	21 (3)	21 (3)
第3部 写 真	37 (0)	63 (0)	63 (0)
合 計	98 (3)	130 (3)	130 (3)

【前回】 ※出品者数 95人 ※出品点数 126点 ※入賞・入選点数 126点